

連載を終えて

絵と文・熱田親憲 題字・熱田秦華

熊野古道

みづくさ記

56

「紀伊半島の霊場と参詣道」が世界文化遺産に登録されて10周年を迎えた2014年の6月から掲載を始めた「熊野古道みづくさ記」は、読者の皆様に支えられ、今回の56回をもって連載を終えることになりました。無事にここまでたどりつけた達成感を味わえて幸せに思っています。

「紀伊半島の霊場と参詣道」が世界文化遺産に登録されて10周年を迎えた2014年の6月から掲載を始めた「熊野古道みづくさ記」は、読者の皆様に支えられ、今回の56回をもって連載を終えることになりました。無事にここまでたどりつけた達成感を味わえて幸せに思っています。

「紀伊半島の霊場と参詣道」が世界文化遺産に登録されて10周年を迎えた2014年の6月から掲載を始めた「熊野古道みづくさ記」は、読者の皆様に支えられ、今回の56回をもって連載を終えることになりました。無事にここまでたどりつけた達成感を味わえて幸せに思っています。

神事と国際化

現地取材では、仲介していただいた方の親切さとインタビューを受けた現地の方の素朴さ、謙虚さに心を打た

れ、生々しい体験を吐き出したカナダ男性もおり、熊野の国際化の現状を露していただき、たくさんさんの感激を味わいました。人間が更に好きになり、人間にとって人間が一番の刺激剤だと学びました。観察取材ではいくつかの例大祭や神事を見ましたが、どれも観光化していない氏子のた

古道ゆっくり歩いてみる

めの神事で、わざとらしさがなく心に感心しました。100%地元コミュニティのた

め、生々しい体験を吐き出したカナダ男性もおり、熊野の国際化の現状を露していただき、たくさんさんの感激を味わいました。人間が更に好きになり、人間にとって人間が一番の刺激剤だと学びました。観察取材ではいくつかの例大祭や神事を見ましたが、どれも観光化していない氏子のた

精神性と多様性

日本書記によれば、木の神様の元締め、スサノオノミコトの長

互いの信仰を認め合う精神は、多様性を認め合うことであり、日本人の精神性の柱になっています。一神教のイ

和歌山支局

〒640-8154 和歌山市六番丁5

和歌山第一生命ビル4階

TEL 073(431)1411

FAX 073(433)0650

wakayama@mainichi.co.jp



大内坂
A.

大門坂（那智勝浦町）にて

変化した役割

熊野詣でに対する古人の受け止め方を知る代表的な文献に藤原忠「中右記」があります。本宮前で「感涙抑え難く随喜感悦す」と言わせたのは、難行苦行の末、目的をもって歩き通した達成感なのでしょう。無心の境地から「よみがえらせ」てくれたのです。上皇や法皇が「よみがえらせ」に気づいたとき、目先の誘惑に惑わされない人間として強く生きられるようになったといえます。便利さを求める現代人には耳の

痛い話です。

熊野古道は熊野街道、熊野参詣道など呼称も何通りかあります。「道」が時代とともにいろいろな役割を果たしてきたことによる変化なのでしょう。田畑や柴刈りに通う生活道路からはじまり、心の安らぎを求める人々の神社仏閣への参詣道になり、戦国時代は戦場にもなりました。商業経済の発展とともに物流・交通・情報伝達のための街道になり、歴史の動脈になってきたように思えます。それゆえ道を歩くことこそが、歴史を知り、将来を見通す早道のようにも思えます。

最後に私が熊野古道を歩む時、心に刻んだ藤白神社の吉田晶生宮司の話をお贈りしたいと思います。

熊野古道を歩いて①自然に触れ、人に触れてほしい②自然に畏敬の念を持ち、神仏の存在に気づいて欲しい③人に会い、お接待の原点に触れて、あいさつの大切さを感じて欲しい——の3点です。どうぞ熊野古道をゆっくり歩いてみてください。

読者の皆様、56回の長きにわたりご愛読ありがとうございました。

—おわり